

環境影響評価集計表

環境影響に関する授業一覧

分類: (1) 自然環境、社会環境、文化環境、医学・保健環境等の理解促進に関わる授業

(集計対象:平成28年度 調査実施年度:平成29年度)

(2) 環境側面(環境に影響を与える要因)を個別具体的に対象とする授業

部局	No.	授業題目	分類	学年	開講学科・専攻	担当者	授業の概要
人文学部	1	環境政策の社会学	(2)	1~4	共通教育(全学教育機構)	茅野恒秀	日本の環境問題の経験と、その解決のためにどのような主体が関わり、政策過程が形成されてきたかを社会的に検討
	2	消費社会論入門	(1)		共通教育	水原俊博	現代消費社会の仕組みや問題について解説し、その中で、環境問題との関連について説明した。
	3	世界史のなかの中国	(1)	全	共通教育	豊岡康史	環境要因と歴史事象の連環について講義を行った。
	4	東洋史概論II	(1)	全	人文学科	豊岡康史	環境要因と歴史事象の連環について講義を行った。
経法学部	1	財政	(1)	2	応用経済学科	山沖義和	国の予算の3分の1を占める社会保障制度の概要(特に医療・介護・健康政策)について解説。
	2	環境法	(1)	2~4	経済学部・経済システム法学科	小林寛	環境法の歴史、理念・原則、環境政策の手法、環境影響評価制度、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、廃棄物処理法、自然公園法などの環境法に関する諸テーマを解説した
	3	環境法入門	(1)	1年	全学共通教育科目	小林 寛	環境法に関する入門(法学への導入講義を含む)の講義を「18才から学ぶ環境法」という教科書を使用して行った。

経法学部	4	ミクロ経済学 I	(1)	2~4	経済学部	西村 直子	市場が機能不全あるいは市場が存在しない社会活動に関する政策分析。その一環で、環境をはじめとする公共財および外部性を伴う財に関わる講義内容あり。
	5	憲法	(1)			赤川 理	日本国憲法についての基礎的な知識を修得し、それらの知識を応用して理論的思考ができるようになることを目標として授業を行った。
理学部	1	生態学	(1)	2	理学科生物学コース	高橋耕一	生物と環境の関わりについて概説している。
	2	進化多様性生物学	(1)	2	生物科学科	市野隆雄	人間の性質はどこまで遺伝子によって決まっているのか、また地球上に人類が出現して以来、人間はどれほど生物種の絶滅や生態系の攪乱を引き起こしてきたか。これらの点について科学的に広く理解することが第一のねらいである。
	3	生態遺伝学		2	生物学コース	浅見崇比呂	自然環境における生物集団および生物群集の進化に関する生態と遺伝のメカニズム
	4	進化遺伝学		3	生物学コース	浅見崇比呂	自然環境に対応して生物が進化するメカニズム
	5	新入生ゼミナール	(1)	1	理学科地球学コース	原山 智	地球学を学習するうえで最低限必要な基礎知識や自然環境の成り立ちについて各自の課題として自主的に学ぶ。地球を構成する主要な单元であるコア・マントル・地殻、岩石、鉱物や信州大学を取り囲むの自然環境の成り立ちについて、各自で分担する課題として学習し、授業中に発表を行うことを通して、主体的学習ができるようになることをめざす。
	6	地球史学	(1)	2	地球学コース	吉田孝紀	地球環境の変遷を教える
	7	資源地質学	(1)	3	地球学コース	森清寿郎	地球において微量元素が採掘できるほどに濃集した鉱床の成因を解説した。

理学部	8	地球化学実験	(1)	3	地球学コース	森清寿郎	地質試料の化学データをどのような方法・原理により取得するのかを、実験を通して理解させた。
	9	地球システム学 I		2	理学科	岩田拓記	地表面と大気との間の物質循環における基礎的な概念や気候システム、そして、地表面と大気との間の物質交換がどのように起こっているかを学習する。
	10	生物地球化学II	(1)	3	物質循環学科	國頭	地球規模での炭素循環や、酸性降水の生態系への影響などの環境問題についても扱っている。
全学教育機構	1	基礎科学実験	(1)	2	医学部医学科	村上 好成	種々の金属イオンの定性分析および定量分析を行った。
	2	化学実験	(1)	1・2	理学部	石川 厚・大木 寛・ 飯山 拓・濱崎 亜 富・竹内 あかり	種々の金属イオンの定性分析を行った。
	3	化学実験	(1)	1・2	理学部	庄子 卓・樋上 照 男・小田 晃規・金 継業・太田 哲・巽 広輔	種々の金属イオンの定性分析を行った。
	4	環境問題を化学者と考えるゼミ	(1)	全	全学対象	村上 好成	様々なスケールでの地球環境問題を考え、信大の環境マインドを体得することをねらいとする。テーマとして農薬、海洋汚染、酸性雨等を扱う。
	5	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(2)	全	全学対象	金沢 謙太郎	食料調達の方法や居住地の移動など生活戦略に関して、縄文人と東南アジアの先住民を比較検討し、狩猟採集文化に対する理解を深める。
	6	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	全	全学対象	分藤 大翼	文化人類学からの視点

全学教育機構	7	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	全	全学対象	佐藤 友則	外国人留学生から見た日本の環境に向けた取組への評価、ドイツの取組などを紹介し、日本人の環境意識について考えさせた。
	8	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	全	全学対象	松岡 幸司	人文・社会科学的な様々な視点から、考察・検討・理解する。広い視野を持って環境問題を思考するための問題発見・問題解決の能力を養う。
	9	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	全	全学対象	有路 憲一	生活環境における脳神経科学
	10	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	全	全学対象	小山 茂喜	江戸の文化から環境問題を考えたり、現代的な課題から環境教育の方向性を考えるようになることをねらいとした。
	11	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	全	全学対象	加藤 善子	私の担当では(1コマ分)、集団が問題解決するための行動を促す環境の条件を社会心理学からアプローチした。
	12	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	全	全学対象	荒井 英治郎	環境教育の政策・制度論
	13	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	全	全学対象	河野 真由美	1/15の講義を担当し、ディープエコロジーや森のようちえんを紹介しながら、環境教育についての授業を行った。
	14	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	全	全学対象	神谷 真由美	対人関係が心身に与える影響
	15	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	全	全学対象	田村 徳至	消費者の環境について

全学教育機構	16	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	全	全学対象	橋本 純一	従来、自然科学的に捉えられて検討されてきた環境を、人文社会科学的なアプローチで検討する。
	17	ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)	(1)	全	全学対象 (高等教育コンソーシアム 信州 遠隔配信)	松岡 幸司	「ネイチャーライティング」を含む「環境文学」という文学ジャンルの視点、および作品を紹介し、そこに現れる自然・環境意識を「心でとらえる」学びを通して、「環境マインド」の育成を促進した。
	18	環境文学のすすめ(環境文学Ⅱ)	(1)	全	全学対象 (高等教育コンソーシアム 信州 遠隔配信)	松岡 幸司	「環境文学」という文学ジャンルの視点、および作品を紹介し、そこに現れる自然・環境意識を「心でとらえる」学びを通して、「環境マインド」の育成を促進した。
	19	ドイツ環境ゼミ	(1)	1	全学対象	松岡 幸司	「グローバルな視点で環境問題にアプローチできる姿勢と能力」を身につけるために、3週間のドイツ研修(語学研修+環境視察)を行い、その成果をレポートにまとめ、公開報告会にて発表する。
	20	ライフサイクルアセスメント入門	(1)	全	全学対象	小林 充	製品の資源消費量や環境への排出物量および環境影響の評価方法について講述し、演習を通じてその方法を修得する。
	21	環境と生活とのかかわり	(2)	全	全学対象	小林 充	生活に関わる製品・サービスの環境とのかかわりや環境ラベルについて講述する。
	22	健康科学・理論と実践 (地球環境と健康)	(2)	1	全学対象	小林 充	地球温暖化やオゾン層破壊などによる人間への健康被害を定量的に評価する方法を修得する。
	23	環境社会学入門	(2)	全	全学対象	金沢 謙太郎	本講では、環境社会学の理論的思考や実践的研究方法を学んだ上で、環境問題に対する自分なりの考察や批判ができることを目標とします。
	24	熱帯雨林と社会	(2)	全	全学対象	金沢 謙太郎	熱帯産の食料や資源などを事例に、それらの大量移動に伴う影の問題や現地社会と私たちが抱える現代的課題について考えます。

全学教育機構	25	生態資源論ゼミ	(2)	全	全学対象	金沢 謙太郎	生態資源とは、人とともに存在し生きてきた資源を指します。県内の生態資源を事例とし、それらの利用の歴史と現状、展望を探ります。
	26	環境マインドを現場で体験するゼミ(熱帯雨林)	(2)	全	全学対象	金沢 謙太郎	国際協力の分野で実践されているParticipatory Rural Appraisal(PRA)をマレーシア、サラワク州の農山村の現場で演習します。
	27	環境マインドを現場で体験するゼミ	(2)	全	全学対象	大塚 勉 池田 敏彦 金沢 謙太郎	水生生物による環境調査、NPOの環境保全活動などの見学実習を通じて、信州の地域環境への理解を深め、社会貢献のあり方を議論します。
	28	地球白書ゼミ	(2)	全	全学対象	金沢 謙太郎	地球が直面している問題群を比較的平易な英文とそこに挿入されている図表から理解していきます。
	29	生活のなかの天文学	(1)	全	全学対象	三澤 透	天文学を学際的に幅広く扱う講義。環境については、太陽活動による影響やスペースデブリについてわずかに触れた程度。
	30	トレッキング	(1)	全	全学対象	廣野 準一 加藤 彩乃	「信州の自然体感」をテーマに、自己の身体を再確認し、運動の重要性の認識と生涯学習への導入を図るとともに、信州の自然環境を体感することにより環境問題についての理解を深める授業。
	31	健康科学・理論と実践	(1)	1	全学対象	速水 達也	体力向上および健康の維持増進に対する具体的方法を実践した。具体的には、ウォーキング、ジョギング、種々のエクササイズであった。
	32	農山村と環境 (第2,3回担当)	(1)	全	全学対象	内川 義行	中山間地域の役割、特に信州の水資源とユネスコエコパークをテーマに、自然資源の活用と保全について、実践的な研究事例を踏まえて講義を実施
	33	自然環境と文化	(1)	全	全学対象	分藤 大翼	人類学的な知見にもとづいて、食文化、健康と病、病と癒し、死と儀礼、音楽・舞踊、装いといった項目について自然環境と密接に関わりながら生きている人々の文化を紹介する。

全学教育機構	34	地球環境の歴史	(1)	全	全学対象	大塚 勉	地球の過去の調べ方、年代測定法、地球の誕生、大気組成の変遷、生命の誕生と進化、大陸移動とプレートテクトニクス、気候変動といったテーマを、地球の歴史に沿って、トピックを取り上げながら授業を展開する。グループ学習・発表を行う。
	35	自然災害と環境	(1)	全	全学対象	大塚 勉	地球が温暖化する中で、川や海で起こる現象やしきみをよく理解し、将来予測や対策に役立てる必要がある。松本は大地震発生の確率がとくに高いとされている。活断層をはじめとする地質環境について学ぶ
	36	Low Energy Building(省エネルギー住宅)	(1)	全	全学対象	BRIERLEY MARK ALAN	他の先進国と同様、日本で消費されているエネルギーの3割は、住宅で使われています。人口が増加し、化石燃料が限られてくる世界では、省エネルギー住宅が必要となります。エネルギー消費を減らすことで、居住者に快適で健康的な暮らしをもたらす、建物の耐用年数においても経済的です。本講義では、省エネ住宅の仕組み、その実用性と将来について紹介します。
	37	生徒指導の理論と実践	(1)	2~4	人文・理・農・工・繊維	田村 徳至	学校・教室内における環境整備が児童・生徒の心身の発達や学習能力の向上に影響するかについて教授した。
部内局部	1	健康科学・理論と実践	(1)	1	全員	前センター長 川 茂幸 ほか	大学教育における基礎的な能力として、大学生活を健全に送り、かつ生涯にわたって健康を維持増進するための健康科学の知識と実践方法の習得を目的とする。